

平成24年度 不祥事ゼロプログラム

事故・不祥事防止は誰のためでもない！
「自分と自分の家族の
生活を守るため」にある！

という“当事者意識”を一人ひとりが持とう！

◎ 霧が丘高等学校不祥事ゼロプログラムの策定にあたって

事故・不祥事を招く、「3つの内部原因を」認識し、事故・不祥事をゼロにしたい。

- (1) 最大の原因は全職員の“危機意識の欠落”にある！
- 「タイシタコトニハナラナイダロウ・・・」⇒とんでもない結末へ！
 - 「ナントカナルノデハ・・・」⇒なんともならない！
 - 「ヨクアルコトサ・・・」⇒有ってはならない！
- (2) 職場での“情報ブロック”と“内部処理”が危ない！
- トップに知られたくない“情報ブロック”意識が、事故を呼び込む！
 - 自己保身から生じる、問題の“内部処理”が事故を大きくする！
 - 「隠蔽・組織ぐるみ」と見られ、大きな社会問題化へと進む！
- (3) 問題があっても指摘しにくい“職場風土”が危ない！
- “風通しの悪い学校”には、必ず「事故・不祥事」が訪れる！

◎ 策定方針

- ① 校内システムの問題点と、知識・モラル上の問題点を分けて対策を考える。
- ② 校内システムの問題は関係部署で、至急、点検と対策を行い事故・不祥事防止に努める。
- ③ 知識・モラル上の問題は、年度内に計画的・継続的に講習会・グループ討議を実施し、職員意識への深化を図る。
 - 研修会は年間7回実施する。(全職員で実施)
- ④ 全職員で取り組むことにより、不祥事防止の意識が高揚することを考え、各テーマの研修等の内容については、各グループが担当する。

- | | |
|---------------------------------|----------|
| ○成績処理の適切な運用・ミス防止 | 学務 G |
| ○適正な経理処理（備品の現物照合）、私費会計・部費の適切な運用 | 総務 G |
| ○個人情報等の管理、情報セキュリティ対策 | 研究広報 G |
| ○体罰・不適切な指導の防止 | 活動支援 G |
| ○交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転の防止、交通法規の遵守 | 生活支援 G |
| ○セクハラ・わいせつ行為の防止 | キャリア支援 G |
| ○公務外非行の防止（法令遵守意識の向上） | 外部講師 |

- ⑤ 全職員が知恵を出し合い対策を考えることを重視し、ゼロプログラムは骨子のみを策定する。
- ⑥ ヒヤリハットの活用を考える。⇒心にかかることは、そのままにしない！

霧が丘高等学校 不祥事ゼロプログラム

県立霧が丘高等学校は、事故・不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり不祥事ゼロプログラムを定める。

I 実施責任者

県立霧が丘高等学校不祥事ゼロプログラムの実施責任者は校長とし、副校長及び教頭、事務長がこれを補佐する。

II 目標および行動計画

(1) 教育委員会共通目標

- ① 公務外非行の防止（法令遵守意識の向上）
- ② 適正な経理処理（備品の現物照合）、私費会計・部費の適切な運用
- ③ 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策
- ④ 体罰・不適切な指導の防止
- ⑤ 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転の防止、交通法規の遵守
- ⑥ セクハラ・わいせつ行為の防止
- ⑦ □学校独自課題—成績処理の適切な運用・ミス防止

(2) 行動計画指針

「霧が丘高等学校 事故防止行動計画」に基づいて、システム等の点検や問題点の洗い出しを徹底し、事故の起きないシステムづくりを至急行い、事故・不祥事の未然防止に努める。知識・モラル上の問題については継続的・計画的に研修会等を実施し職員の意識高揚を図る。その他については、各グループや職員の意見、ヒヤリハット事例等から必要に応じて設定する。

(3) 校内研修計画

①対策項目

- i 公務外非行の防止（法令遵守意識の向上）
- ii 適正な経理処理（備品の現物照合）、私費会計・部費の適切な運用
- iii 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策
- iv 体罰・不適切な指導の防止
- v 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転の防止、交通法規の遵守
- vi セクハラ・わいせつ行為の防止
- vii 成績処理の適切な運用・ミス防止

②目標

上記に係る不祥事を未然に防止する。

③計画

- i 講習内容の検討（各グループで担当者が企画・検討）
↓
- ii グループ討議・講習会
○グループで研修会の企画・運営を実施する。
○討議を通して全職員が参加する形式をとる。
○実施時期は次のとおりとする。

④実施時期

- i 成績処理の適切な運用・ミス防止 学務 G 6月
- ii 公務外非行の防止（法令遵守意識の向上） 外部講師 7月
- iii 適正な経理処理（備品の現物照合）、私費会計・部費の適切な運用

	総務 G	9月
iv 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	研究広報 G	10月
v 体罰・不適切な指導の防止	活動支援 G	11月
vi 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転の防止、交通法規の遵守	生活支援 G	12月
vii セクハラ・わいせつ行為の防止	キャリア支援 G	1月

(4) 必要に応じて随時行う事故防止研修会

朝の打合せや職員会議等で必要に応じて事故防止研修会を実施する。

III 検証

(1) 検証

一斉点検チェックプログラムに基づいて、平成24年度7月末までに実施状況を確認し、未実施があった場合は、平成24年9月中に補完措置を講ずる。また、各目標達成に向けて行動計画を修正する必要がある場合は、必要な修正を行う。

- 各グループで第1回校内システムの点検 6月末日
- ↓
- 問題点があれば、グループ・担当で対策案を作成 7月末日

(2) 最終検証

不祥事ゼロプログラムを踏まえて、今年度の実施状況を踏まえ、反省点等を整理し自己評価を行う。それを踏まえて、次年度における霧が丘高等学校不祥事ゼロプログラムを策定する。

(3) 実施結果

検証結果を踏まえ「実施報告」をとりまとめるうえ、教育局行政課への報告をまとめて同課に送付する。

IV 事務局

プログラムの策定及び実行の具体的手続きについては、事故防止会議（企画会議）がこれを行う。

平成24年度 神奈川県立霧が丘高等学校不祥事ゼロプログラムの検証・評価

平成24年度不祥事ゼロプログラムについて、次のとおり、行動計画に従って職場研修、点検等を実施し、事故防止に努めた。

- ・(1) から (4) までの各項目について、事故防止研修会や朝の打合せ、職員会議において、不祥事に関する情報提供を行うとともに、注意喚起を重ねて実施して、職員の意識啓発に努めた。
- ・校内研修会においては、外部講師による講義、各グループによる項目別事故防止策を討議し、全職員で共通理解し、職場での事故不祥事の撲滅を目指した。
- ・成績処理、入学者選抜業務等においても、個人情報の管理、成績処理のチェック体制の再確認を実施し、事故防止に努めた。